

担当教員 樫永真佐夫	Instructor Name KASHINAGA Masao			
開講期 後学期	Class Starts at 2 <sup>nd</sup> Semester	開講期間 半期	Period One Semester	対象年次 / Suggested Grade 3,4,5
科目コード / Subject Code 20DRSb04		単位 / Credit 2		
科目名称： 東南アジア文化研究演習 II		Subject: Seminar II (Southeast Asian Studies)		
<p>授業概要：</p> <p>授業科目タイトル：東南アジアにおける地域文化 / Local Cultures in Southeast Asia</p> <p>講義形態：1 回目のみ講義、残りはすべて演習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東南アジア大陸部は多民族・多言語地域であり、山間部では地勢に応じて民族が高度別に住み分けてきたことが知られてきた。この地域の民族間関係、山地民と平地民の関係に関する文化人類学の主要文献を講読し、東南アジアの民族間関係に関する知見を深め、民族概念をめぐる一般理論を学ぶ。</li> <li>・受講者は文献の担当箇所に関するレポートを書き、読み上げの形で報告し、質疑応答にこたえる。</li> </ul>				
<p>教育目標・目的：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東南アジアにおける山地民と平地民の関係をめぐる知見を深めることができる。</li> <li>・民族概念に関する一般理論に関する知見を深めることができる。</li> <li>・レポート読み上げ形式の発表を通して、論理的な文章記述ができるようになる。</li> <li>・口頭発表と質疑応答を通して、説得力のあるプレゼンテーションができるようになる。</li> <li>・英語文献の読解を求めることがあることから、英語の研究論文の読解力を高めることができる。</li> </ul>				
<p>授業計画：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1, 講義：「東南アジア大陸部の山地民と平地民をめぐる研究史」</li> <li>2, 演習：「山地と平地」</li> <li>3, 演習：「前近代国家の統治形態」</li> <li>4, 演習：「水稻耕作と労働力」</li> <li>5, 演習：「未開と文明」</li> <li>6, 演習：「中心と周縁」</li> <li>7, 演習：「国家に抗する山地民」</li> <li>8, 演習：「声の文化と文字の文化」</li> <li>9, 演習：「民族の集団性」</li> <li>10, 演習：「宗教と信仰」</li> <li>11, 演習：「国民国家における山地民」</li> <li>12, 演習：「J.スコットのゾミア論」</li> <li>13-14, 演習：授業での議論をふまえて学生自身の調査地を事例とした報告</li> <li>15, 演習：E.リーチ、G.コンドミナス、J.スコットの理論を視野に入れた「議論の総括」</li> </ol>				

成績評価：

- ・ 割り当てられた課題に対する授業レポートと質疑応答（60%）：各回の発表者は、論文の形式で、書き下ろした授業レポートを読み上げる。
- ・ 研究発表レポート（20%）：授業での議論をふまえて、自分の調査地を事例としたレポートを書いて発表する。
- ・ 学期末レポート（20%）：授業における議論をふまえて、授業レポートを加筆修正した完成版とする。
- ・ なお、それぞれのレポートは、専門知識に基づき、論理的に議論を展開できているかを主な評価基準とする。

実施場所：

国立民族学博物館 大学院演習室

使用言語：

日本語

教科書・参考書：

J.スコット 2013 『ゾミア-脱国家の世界史』みすず書房

備考：

- ・ 地域文化学専攻・比較文化学専攻の学生のみ履修可
- ・ 英語の読解力を必要とする。発表とレポートは日本語で書き、報告する。
- ・ 事前課題

受講者は、1. 研究テーマ、2. 本授業を受講する理由(自らの研究テーマや問題関心との関連において)、3. 本授業に希望することについて、履修届を提出する前にあらかじめ簡潔なレポートを担当教員宛にメールにて提出すること